

Title	九谷塾物語 カブトムシとクワガタで魅せる : スーパー創作集団「九谷塾」の誕生
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ3, 33
Issue Date	2010-01
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8802
Rights	
Description	



今後の展望 — 社会的関係資本としての「塾」

社 会が混迷を深めているときに「私塾」ができ、人材を輩出します。歴史的には松下村塾、適塾などが有名です。「私塾」とは理念を掲げて「私」が開設する学習組織です。公的な組織が硬直的で制度疲労を起こし、社会の変化に対応できないときに、次代に必要な知識、教養を身につけた人材を養成する場です。

いま、九谷焼業界だけでなく全国の伝統工芸産地では売り上げの減少が続き、次世代を担う人材育成もままならない未曾有の危機を迎えています。このようなときこそ、新たな変革への挑戦が求められています。

いま所属している組織や場とは別な場所で、新たな挑戦を行う。それに適しているのが「塾」という場です。九谷塾は発足当初から「塾」を名乗っていましたが、有志が商品開発事業に出資し、1年半の活動を共にして、ようやく「塾」としてまとまりができました。

人が少ない地方圏の伝統工芸産地において、分業により仕事の範囲が限られている。外界との接触や、コミュニケーションの機会が少ない。多様な意見を取り込みづらい。複数の人が集まり議論してものごとを

決めたり、進めたりすることが苦手。

こうした伝統工芸産地の旧弊を、九谷塾は多くの時間を話し合いに当てることで解決してきました。自分ができることとほかの人ができることを組み合わせる。そのためには、周りにつながる力、社会とつながる力（社会関係力）の強化が必要です。

現在、九谷塾は、商品開発事業のために集まった集団に留まらず、理念を共有した持続的な活動を行う集団に衣替えする時期に来ています。1年半の活動を通じて、各々のメンバー自身が成長し、集団として新たな場のデザインを必要とするようになったのです。

コミュニケーションの場所づくり、組織づくり、ルールづくり、それは自分たちの力を発揮するために、既存の枠組みを新たな枠組みへと再編成することです。九谷塾の誕生と活動は、従来の伝統工芸産地の生産と販売の関係性を変え、より創造性豊かなビジネスを育む契機になる可能性があります。JAIST では九谷塾のような場を新たな社会的関係資本（ソーシャル・キャピタル）※と捉え、運営の支援を行っています。

※社会的関係資本とは

社会的関係資本は、共通の目標を達成するための協調活動を容易にする規範や関係性を伴ったネットワークのことです。このようなネットワークの下で人びとの協調行動が活発になれば、地域力や社会の結束力が高まり、社会の効率性が増大します。信頼、規範、ネットワークの存在を重要な要素とする社会的な仕組みとも言えます。

九谷塾 公式サイト URL:<http://www.kutanijuku.com/>

地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成18年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 3

発行 2010年1月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: dento-secr@jaist.ac.jp



本誌は、文部科学省科学技術振興調整費
地域再生人材創出拠点の形成プログラム
の助成を得て発行しております。



北陸先端科学技術大学院大学

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 3

九谷塾物語 カブトムシとクワガタで魅せる スーパー創作集団「九谷塾」の誕生



平成21年12月、東京・お台場で開催された商品見本市・IFFT インテリアライフスタイルリビングで、一つのブースが注目を集めました。円形に配置した細長い展示台の上に九谷焼のカブトムシやクワガタが一つずつ置かれています。中央から放射状に据え付けられたレンズを覗くと、カブトムシやクワガタに描かれた絢爛豪華な絵付けが目前に迫ります。来場者から称賛の声を浴びるのは「九谷塾」というスーパー創作集団。その活動の軌跡を紹介します。

No.33



ZOOM UP! ズームアップ、九谷塾！

年2回、東京・お台場で開催される IFFT インテリアライフスタイルリビングは、インテリア・家具からデザイン小物まで、ハイセンスな商品が提案される注目度の高い商品見本市です。

平成21年12月、この見本市が新進気鋭の作り手を紹介する企画展示“ARTISAN”（アルチザン：職人の意味）を行い、そのなかで、一つのブースが大きな注目を集めました。

円形に配置した細長い展示台の上に、円の中央から放射状にアームが伸びており、アームの先には大きなレンズがついています。何かの実験室のような、近未来的な雰囲気を現出させています。

展示台に一つずつ置かれた小さなオブジェ。九谷焼のカブトムシとクワガタです。レンズ越しに覗くと、カブトムシやクワガタに描かれた絢爛豪華な絵付けが目の前に迫ります。

来場者の「かっこいい!」、「かわいい!」という称賛の声を浴びるのは九谷塾というものづくり集団でした。九谷塾とはいったいどんな集団なのでしょう。



注目された九谷塾のブース



一番人気だった 兜蟲 金盛唐草



スーパー創作集団・九谷塾ができるまで

九谷塾は、元々は九谷焼の産地組合組織の下で発足した勉強会でした。発足の背景には、九谷焼の産地問屋（売り手）と作家・職人（作り手）とのコミュニケーションがうまくいっていないという実状があったと聞きます。両者の強力なスクラムがあっこそ産地の強みを活かします。そこで、コミュニケーションを円滑にするために、九谷塾という場が設けられたのです。しかし、発足して数年は懇談をするばかりで、メンバーの共通の目標がありませんでした。

九谷塾が本格的に動き出すのは平成20年の夏です。石川県が設けた新ライフスタイル研究事業に、九谷塾の有志が応募したのです。この事業は将来のライフスタイルを予測しながら商品開発を行うという目的がありました。そこで、参加した九谷塾のメンバーはまずは外部から講師を招いて、エコ、シルバー、キッズといった

市場について勉強会を開催し、ものづくりの方向性についてディスカッションを行いました。そして、勉強会のあと、メンバーがどのような商品を開発したいか、企画を出し合いました。



鎌型 新花詰



カブトムシで語るもの

九谷塾はなぜカブトムシをつくったのでしょうか。じつは、メンバーから複数の商品企画が出たのですが、一つにまとめることはありませんでした。この事業でどこまで到達するか、という共通の目標がなかったからです。

産地問屋、作家、窯元（素地製造）といった業界で立場の異なる人間が一堂に会して企画を出し合うという光景は、九谷焼業界では稀なことです。同じ業界にいても、お互いのことをあまりよく知らないことも多いのです。

商品企画と同時に、九谷塾という集団で何をすべきか、ということが議論になりました。その際、‘この集団でできることをしなければ意味がない’、‘自分の会社だけでできることは別にこの場でなくてもよい’、

‘九谷塾のいう集団をブランド化すべき’、といった意見が出されました。

そして、商品企画についてさらに議論し試行錯誤するうちに、売り上げの低迷が続く九谷焼という存在を絶滅に向かう生きものに見立て、昆虫をつくることにしたのです。そして、九谷焼の造形、加飾技術を最も効果的に発揮できる対象として、カブトムシとクワガタが提案され、このプロジェクト SKIP：Super Kutani Insect Project がスタートしました。

展示会では九谷焼やその技術、そしてものづくり集団としての九谷塾に注目してもらえるようなディスプレイを行いました。カブトムシやクワガタをじっくり見ることを通して、九谷焼の技術や質感に触れてもらいたかったのです。

KUTANIJUKU SPIRIT FOR
OUR CULTURE AND FUTURE